

付2 用語の解説

【生活時間】

1. 行動の種類

1日行動を20種類に分類し、時間帯別の行動状況（同時に2種類以上の行動をした場合は、主なものの一つ）を調査した。

この20種類の行動は、大きく3区分にまとめられ、睡眠、食事など生理的に必要な活動を「1次活動」、仕事、食事など社会生活を営む上で義務的な性格の強い活動を「2次活動」、これら以外の活動で各人の自由時間における活動を「3次活動」と呼んでいる。一般に「余暇活動」と呼ばれるものは「3次活動」に当たる。

20種類の行動とその3区分は次のとおりである。

●1次活動

睡眠

身の回りの用事

食事

●2次活動

通勤・通学

仕事（収入を伴う仕事）

学業（学生が学校の授業やそれに関連して行う学習活動）

家事

介護・看護（入浴・屋内の移動・食事等の手助け）

育児

買い物

●3次活動

移動（「通勤・通学」を除く）

テレビ・ラジオ・新聞・雑誌

休養・くつろぎ

学習・研究（「学業」以外）

趣味・娯楽

スポーツ

社会的活動

交際・付き合い

受診・療養

その他

また、必要に応じて、次の区分も用いている。

家事関連時間……………「家事」，「介護・看護」，「育児」，「買い物」の行動時間の計
在宅型余暇活動時間……「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」及び「休養・くつろぎ」の行動時間の計

積極的余暇活動時間……「学習・研究」，「趣味・娯楽」，「スポーツ」，「社会的活動」の行動時間の計

なお、上記の行動について、時間帯別に「一緒にいた人」の状況を4区分（「一人で」，「家族」，「学校・職場の人」，「その他の人」）で調査している。（「睡眠」については「一人で」行う活動として集計している。）

2. 平均時間

行動の種類別平均時間は、1人1日当たり平均時間で、総平均と行動者平均、曜日別平均と週全体平均とがある。

(1) 総平均

該当する種類の行動をしなかった者を含む全員についての平均

(2) 行動者平均

該当する種類の行動をした者（以下「行動者」という。）のみについての平均

(3) 曜日別平均

調査の曜日ごとに平均値を算出したもので、「平日」，「土曜日」（学校のある日・ない日），「日曜日」がある。

(4) 週全体平均

次の式により曜日別結果を加重平均したものである。

週全体平均＝（平日平均×5＋土曜日平均＋日曜日平均）÷7

なお、こ特に断りのない限り、「総平均・週全体」の数値を記載している。

【生活行動（余暇活動）】

1. 過去1年間に行った活動

この調査では、余暇活動のうち主なもの（「スポーツ」，「学習・研究」，「社会的活動」，「趣味・娯楽」及び「旅行・行楽」）について、過去1年間の活動状況を、それぞれの種類別に行ったか否か、行った場合には、1年間の活動頻度や共にした人、利用した施設などを調査した。

(1) スポーツ

余暇活動として行うスポーツをいい、学生が体育の授業で行うものや職業スポーツ選手が仕事として行うものは含まれない。

スポーツは、42種類について調査している。

(2) 学習・研究

個人の自由時間の中で行う学習や研究をいい、社会人が仕事として行うものや、学生が学業として行うものは含まれない。

学習・研究については、その内容を基に12に分類している。

(3) 社会的活動

報酬を目的としないで、自分の労力、技術、時間を提供して地域社会や個人・団体の福祉のために行っている活動をいう。

このうち、児童・老人等要援護者の福祉増進のための活動、地域社会・住民の安全確保、環境整備等、もっぱら他人のための活動の色彩の強いものを「社会奉仕活動」とし、婦人運動、市民運動等、自己を含む社会のための活動の色彩の強いものを「社会参加活動」としている。

社会奉仕活動については、奉仕対象を基に6種類に分類している。

(4) 趣味・娯楽

仕事、学業、家事などのように義務的に行う活動ではなく、個人の自由時間の中で行うものをいう。

趣味・娯楽は、50種類について調査している。

(5) 旅行・行楽

旅行は、1泊2日以上にわたって行うすべての旅行をいい、日帰りの旅行は含まない。行楽とは、日常生活圏を離れ、半日以上かけて行う日帰りのものをいい、夜行日帰りも含む。

旅行については、国内・外国、及び旅行目的を基に5種類に分類している。

2. 行動者数、行動者率、平均行動日数

(1) 行動者数

過去1年間に該当する種類の活動を行った者の数（母集団における行動者数の推定値）

(2) 行動者率……………行動者数÷10歳(15歳)以上人口×100

(3) 平均行動日数

各行動の種類・頻度別の行動者数に基づき、過去1年間の平均行動日数を次の式により算出した。

$$\text{平均行動日数} = \frac{\sum (\text{頻度階級の中央値} \times \text{頻度階級の行動者数})}{\sum \text{頻度階級の行動者数}}$$

なお、「年に200日以上（週に4日以上）」については、中央値を282.5日として計算している。